

# ホールに響く美しいチェロの音色

## 第7回ビバホールチェロコンクール開催



第1位  
ソ・ヨン・ムンさん

平成6年から隔年で開催されているビバホールチェロコンクール（主催：同実行委員会等）が、7月19日から23日まで市立ビバホールで行われました。

このコンクールは、市民の参加によって音楽文化の創造と発展をめざすとともに、将来性豊かな若手チェロ奏者を発掘することを目的に開催するもので、今回が7回目となります。

レベルの高い演奏が披露された中、見事第1位に輝いたのはソ・ヨン・ムンさん（韓国出身・ドイツ在住・27歳）でした。

### 過去最高の52人が出場

ビバホールチェロコンクールは、日本でただ一つ、世界でも数少ないチェロ単独コンクールです。回を重ねるごとに評価が高まり、今や若手チェロ奏者の登竜門と位置づけられるほどになりました。

毎回、出場者も増え、今回は過去最高の52人が出場。日本各地をはじめ、ヨーロッパなど海外からの参加者もいました。

まず、第1次予選が7月19日と20日に行われ、52人のうち16人が予選を通過。さらに、21日に行われた2

次予選で7人の本選出場者が選ばれました。23日の本選では、指定された7曲の中から1曲を選び、その全楽章を一心に演奏しました。

### ◎コンクール入賞者（敬称略）

- ▼第1位／ソ・ヨン・ムン（韓国出身・ドイツ在住）
- ▼第2位／野田悠子（福岡県筑紫野市出身・スイス在住）
- ▼第3位／加藤陽子（東京都文京区）
- ▼第4位／加藤文枝（東京都台東区）
- ▼堀内詩織（東京都小平市）
- ▼第6位／平野朝水（東京都練馬区）
- ▼特別賞／北口大輔（東京都葛飾区）

## 「ぜひに良い音楽家になりたい」

見事1位に輝いたソー・ヨン・ムンさんは「1位になれたのは幸運。コンクールを支えたスタッフの皆さんの温かい助けによって、気持ちよく演奏できました。今後、さらに良い音楽家になるため頑張ります」と喜びと抱負を語りました。

審査員長の堤剛さん（桐朋学園大学学長）は「今回も素晴らしい若きチェリストが集まりました。それがレベルの高い演奏を披露し、結果は全員一致で決定しました」と今回のコンクールを講評しました。



表彰式後に行われた祝賀会で談笑する本選出場者ら



出場者の受付を担当する市民ボランティア

## 130人のボランティアが支えたコンクール

このコンクールの大きな特徴は、市民が担うイベントということですが、運営主体はビバホールチェロコンクール運営委員会（井上正司委員長）で、公募した住民ボランティア130人がコンクールを支えました。

また、出場者とのふれあいを大切にするのも特徴の一つで、ホームステイ希望者を積極的に受け入れています。今回は、市内外で28軒のホストファミリーが、出場者と伴奏者合わせて51人を受け入れました。

第1位に輝いたソー・ヨン・ムンさんもホームステイをされ「皆さんがすごく親切でした。日本の文化を知るためにもホームステイを希望しました」と話していました。

## ～ボランティアさんにお聞きしました～



■入場券もぎり担当■  
雑賀礼子さん（養父市場）

ボランティアとして第2回からお手伝いをさせてもらい、今回が6回目の参加です。

ボランティアをはじめ多くの方の協力で、回を重ねるごとに出場者数も増えてきました。

ボランティアとして参加することで、チェロを通して楽器を身近に感じるようになりました。



■出場者呼び出し・案内担当■  
川嶋恵美子さん（八鹿町八鹿）

音楽が以前から好きで、ボランティアとして役に立てればと思い初めて参加しました。

私たちの住むこの地域では、生で楽器演奏を聞く機会が少ないですが、今回チェロコンクールにボランティアとして参加させていただき、本場の音楽にふれるよい機会になりました。



■出場者受付担当■  
堀谷理恵子さん（広谷）

第5回に続き2回目の参加です。担当は受付で、出場者と直接接する役割でしたので、会話を通じて出場者の皆さんをととても身近に感じる事ができました。

合間をみて素晴らしいチェロの音色を聞かせてもらいましたが、チェロという楽器にも興味わき、楽しく取り組みました。